

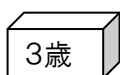
# KEYAK!

6月号

先日、小学校の運動会に何校かお邪魔しました。常夏でした。周囲の心配をよそに、子どもたちは元気いっぱいの姿と笑顔を見せてくれて、学校生活を充実して送れているのかなとひと安心しました。あと、ひなたにじっとしていることが一番暑いということを実感致しました。毎年、徒競走のスタート地点にいればひと通り子どもたちの顔がすぐわかるのでそこで声をかけているのですが、もし私が逆の立場だったら走る直前になつかしく声をかけられてさぞ緊張することでしょう。大抵の子はびっくりした後にはっきりして手を振ってくれるのですが、変なプレッシャーを与えてはいまいかとちょっと考えてしまいました。

運動会では、勝ち負けに拘らずに自分の力を発揮するのもよいことですし、勝ち負けに拘って、勝ってうれしい負けてくやしい、その気持ちの中から育つもの、ひとりじゃない、団結力や絆を深めていくのもよいことだと思います。運動会に限らず行事の中には、学校の、クラスの、そして個人の「目的」や「ねらい」がそれぞれに存在しているはず。それらがわかっていると、やっている側も見ている側も一層面白く、感じる部分も多いですね。

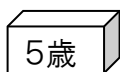
ちなみにこの前、園にタイゾー先生が来日しました。彼が言うには、今年の年長の子どもたち、とくに男の子は勝ち負けに「こだわる」というより「敏感に反応する」クセのようなものがあるとのことでした。例えば、タイゾーと勝負だ！の時間にルール説明をクラスにする場合、「足を使ったらダメですよ。」と伝えるより「足を使ったらみんなの負けだからね。」と伝えたところキッチリ全員それを守れてとても楽しく過ごせたそうです。男の子なんかは特に、勝ちたい。何がなんでも勝ちたい。何でもいから勝ちたい。何だかわからないけど勝ちたい。ただやみくもに「勝ったほうがいい」と考えるこの年頃に、ルールがあるから成り立つこと、だから面白いこと、どうすれば勝てる？に考えを巡らせたりすることに気持ちが向いてくると、彼らのこれから先がググッと楽しみになってきます。



- ・園での生活のしかたや流れがわかり、できることは自分でやろうとする気持が見られる。
- ・保育者に親しみ、自分の要求や気持を表す。(ぼくも！わたしも！)
- ・道具や遊びを媒介にしながら仲間の存在を知る。



- ・集団生活への抵抗がほぼなくなる。
- ・クラスの大部分の子どもを知っている。(名前やマーク、どんな遊びをしている)
- ・グループ単位の中で自由に会話ができる。



- ・集団の一員としての意識を持って行動できる。  
(その中で自分が何をすることがわかっている)
- ・互いの力量、よさなどが認め合える。
- ・どんなメンバーの中でも自分の要求が言える。